

番組「自殺を減らしたい」を見て

18日のNHKスペシャル「自殺を減らしたい～救命救急センター・精神科医の模索～」を見た。

毎日のように救命救急センターに自殺を図った人が運ばれてくると、すぐ精神科医も駆けつける。

自殺未遂に終わった人々は、何に苦しみ、どんな状況で死に追い込まれていったのかを徹底して話を聞き、生きる意欲を取り戻すための治療を行い、「自殺を減らしたい」という熱意あふれる若手精神科医の模索の姿を追ったドキュメンタリーであった。

この病院の調査によると、自殺で死にかけた半数近くがうつ病を患っていたとか。80%は家族や友人がいながら、共通するのは、苦しみを誰にも語らないまま絶望に追いつめられていった孤独な姿だったという。

「だからこそ、一人一人の心の声に耳を傾け、すぐ隣にある解決策を示すことで、自殺は減らすことができると考えている」と、医師たちは云う。

自殺死者は、年間約3万人とか（交通事故死は、年間1万人程度。如何に自殺死者が多いか）。その陰には、何十倍という自殺未遂者がいるということだろう。

自殺を図るうつ症状に至る原因は、実に様々であろうとは思いますが、身近に家族、友人がいながら、なぜ孤独感、孤立感を抱いてしまうのだろうか。

こうした番組、報道に接すると、「『自殺者：7割が誰にも相談せず』の記事に接して（「雑学 BN」のマスコミ等コメント関係（Ⅱ）P、2005.09.02.：参照）」でも触れたが、どうして人は日頃から「人との係わり合いとはどういうことか」を思考していないのかなあと思ってしまう。

また、どうして自らの弱さも日頃からさらけ出す勇気（「雑学 BN」の書籍等読後感関係（Ⅰ）P、2003.9.20.「『弱さも我の一部なり』と云える勇気を持ちたい！」：参照）を身につけるように努めていないのかなあとも思ってしまう。

自殺を図る勇気より、自らの弱さを日頃から口に出す勇気の方が、たやすいことと思えるのだが……。

また、うつに至る自分の従来の価値観を変える工夫も必要な気がするのだが……。

（2005年12月19日 記）